

パソコンリンクソフト
ComDataViewer2
取扱説明書

■ ご使用前に必ずお読みください ■

この度はパソコンリンクソフト(ComDataViewer2)をご利用いただき、誠にありがとうございます。ご使用に関しては、本書の内容をご理解の上、正しくご使用くださるよう、お願い申し上げます。

ご注意

1. 本書および本ソフトを運用した結果の影響につきましては、弊社は一切責任を負いませんのでご了承ください。
2. 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
3. 本書の内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。
4. Windows、エクセルは、米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。
5. その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
6. 本書の内容については万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点がありましたら、当社までご連絡ください。

目次

1. 概要.....	1
2. インストール.....	2
2-1. USBドライバーのインストール.....	2
2-2. ソフトのインストール.....	4
2-3. ソフトのアンインストール.....	4
3. 操作.....	4
3-1. 起動.....	4
3-2. 終了.....	4
3-3. 画面.....	5
3-4. リモート接続・切断.....	6
3-5. 開始・停止.....	6
3-6. アナライザー設定.....	6
3-7. シミュレーション動作.....	7
3-8. オンラインデータ受信.....	7
3-9. ファイル受信.....	7
3-10. 印刷.....	8
3-11. ロジアナ.....	8
3-12. 環境設定.....	9
3-13. ファイル出力.....	10
3-13-1. テキストファイル形式 表示モード：連続.....	11
3-13-2. CSVファイル形式 表示モード：連続.....	13
3-13-3. テキストファイル形式 表示モード：フレーム.....	14
3-14. アナライザー ファームウェア更新.....	15
3-15. その他.....	16
4. 仕様.....	17

1. 概要

本ソフトとアナライザーを接続することにより以下の機能が使用できます。

- ・アナライザーをリモートにて操作することができます。
 - ・モニタまたはシミュレーション結果をパソコンに読み込むことができます。
 - ・アナライザー設定をパソコン側にて変更したり、データを保存することができます。
 - ・読み込んだ結果を印刷することができます。
 - ・アナライザーのファームウェアをバージョンアップすることができます。
- 対応OSは Windows7、8/8.1、10/11 となります。

最新の USB ドライバーとパソコンリンクソフトはホームページからダウンロードできます。

ダウンロード先：<http://www.cyplex.co.jp/download.html>

ダウンロードしたファイルは ZIP 圧縮されていますので、解凍しておきます。

注意) 本ソフトにて保存されたデータは旧バージョンソフトからは読込できなくなります。

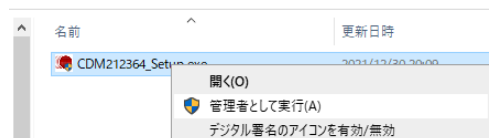
アナライザーの機種によっては使用できない機能も説明に含まれています。

2. インストール

2-1. USBドライバーのインストール

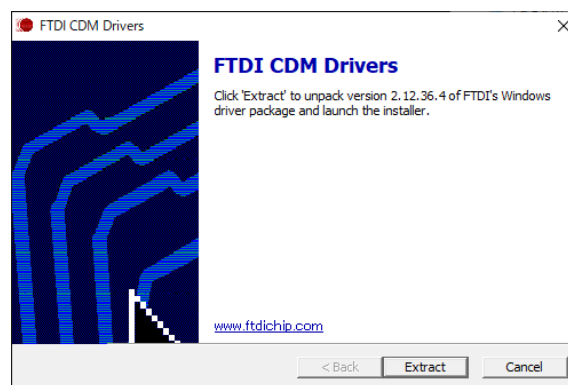
① アナライザーとパソコンを USB ケーブルで接続します。

② 「Driver」 フォルダー内の USB ドライバー
インストール用の「CDM xxx・・・.exe」に
マウスカーソルを当て、右クリックし、
「管理者として実行」を選択します。

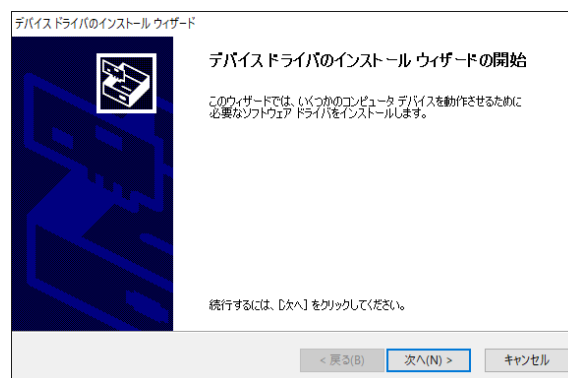


③ 変更許可メッセージが表示された場合は「はい」を選択します。

④ 「Extract」 をクリックします。



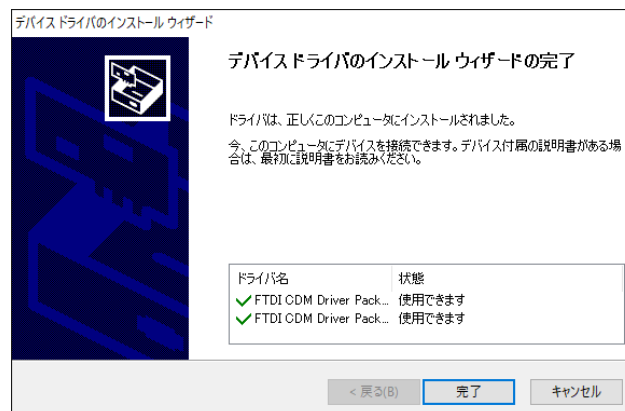
⑤ 「次へ」 をクリックします。



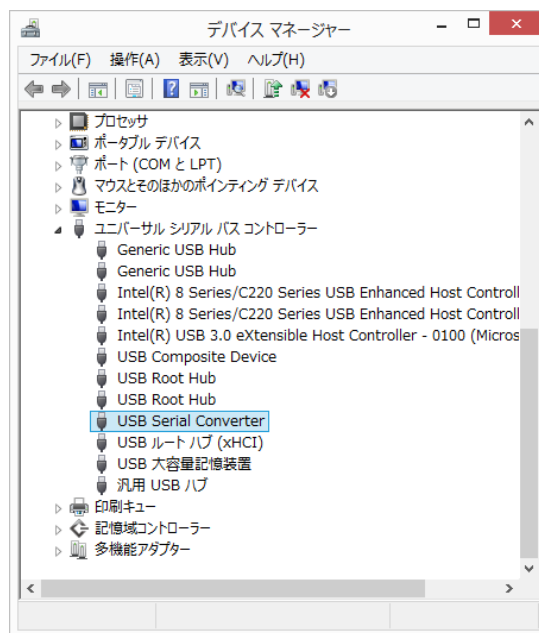
- ⑥ 「同意します」をチェックし「次へ」をクリックします。



- ⑦ [右図] のメッセージが表示されれば終了です。「完了」にて閉じます。



- ⑧ 正常終了した場合、デバイスマネージャーに「USB Serial Converter」が登録されます。



2-2. ソフトのインストール

予めアナライザーのUSBドライバーをインストールしておきます。

アナライザーを使用せず本ソフトのみを使用される場合でも、USBドライバーのインストールが必要となります。

その場合は、2-1項にてドライバーをインストールしてください。

インストールの途中、OSまたはセキュリティソフトが警告を表示する場合があります。本ソフトは安全ですので、インストールの続行を選択してください。

また、ソフトのアップデートや再インストールされる場合は、旧バージョンを削除してから行ってください。

「setup.exe」を実行しインストールを行います。

2-3. ソフトのアンインストール

「コントロールパネル」「プログラムのアンインストール」を選択し、「ComDataViewer2」をアンインストールします。

3. 操作

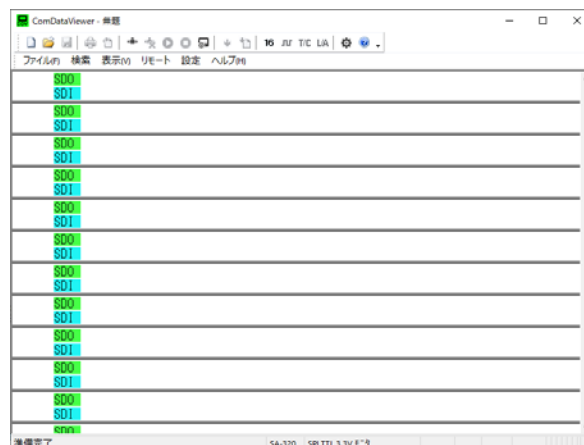
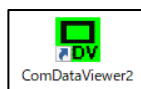
3-1. 起動

デスクトップ上に「ComDataViewer2」

のアイコンが作成されています。

または、スタートメニューにて「Cyplex」内の

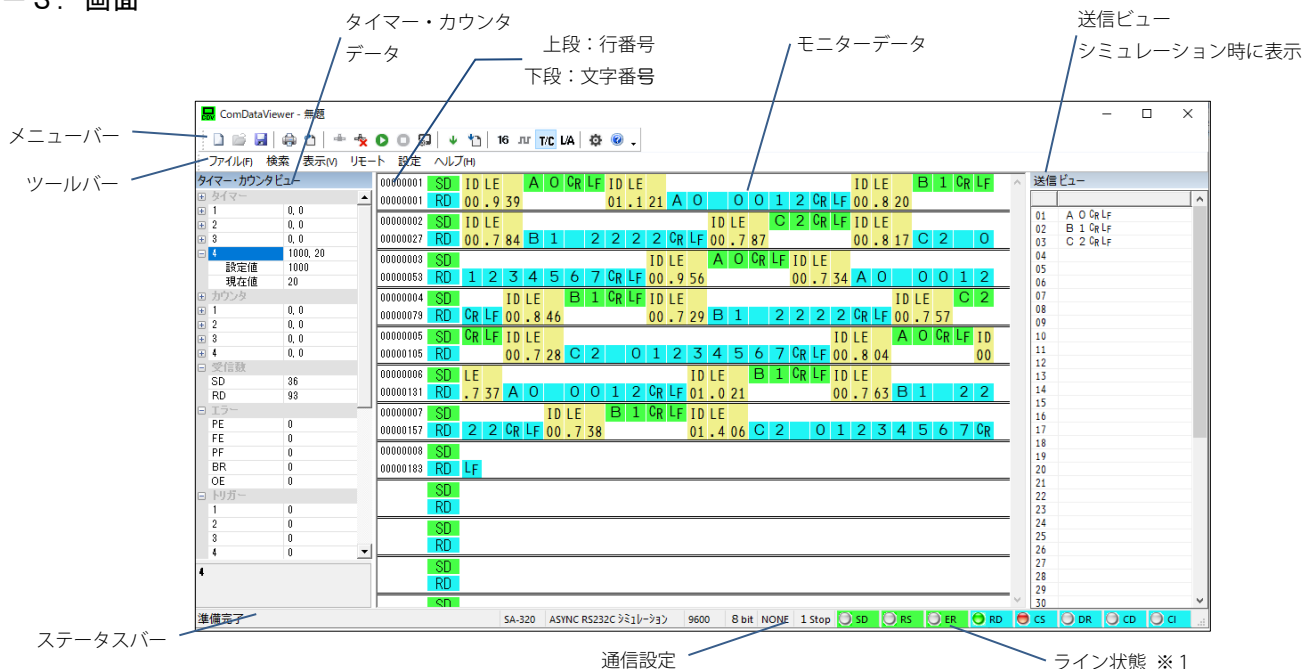
「ComDataViewer2」を選択し起動します。



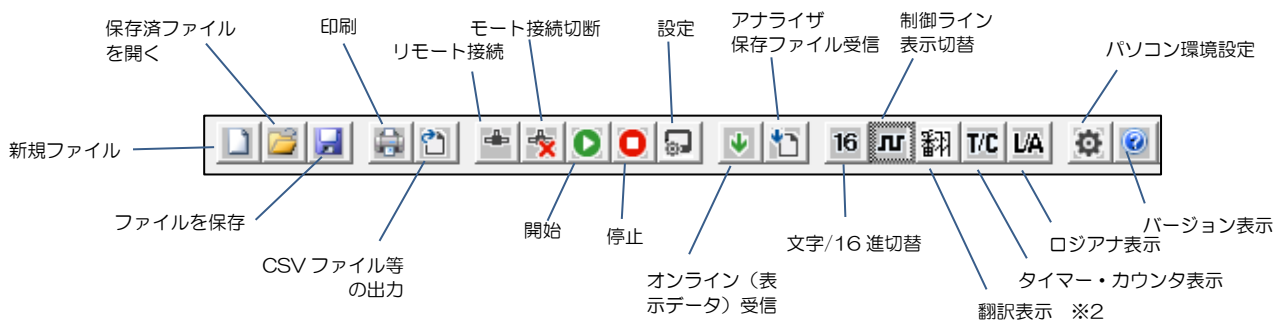
3-2. 終了

アプリケーションの終了は画面上部のメニューバーにて「ファイル」「アプリケーションの終了」を選択します。

3-3. 画面



通信設定状態は現在表示しているモニターデータの設定を表示しています。



※1) ライン状態は通信スピードが速い、データ量が多い、または表示にて制御ライン対応となっていない場合は表示が伴いません。

※2) 翻訳表示は「設定」「測定器設定」「表示」「表示モード」をフレームにしアナライザーVer2.200以降のファームウェアにて取得したデータで有効となります。

モニターデータに関してもスピードが速くデータ量が多い場合は取りこぼしが発生する場合があります。

取りこぼした場合はデータに「OE」が表示されます。

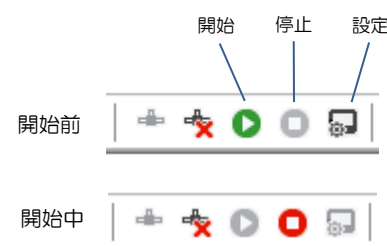
3-4. リモート接続・切断

アナライザーとパソコンを付属のUSBケーブルにて接続します。アナライザーが「停止」状態で「起動画面（電源投入時に表示される画面）」を表示させます。他の画面では接続できません。メニューバーの「リモート」「接続」を選択するか、ツールバーの「接続」を選択します。接続されると右図のようにアイコンが切り替わります。切断するにはメニューバーの「リモート」「切断」を選択するか、ツールバーの「切断」を選択します。リモート接続中はアナライザー本体での操作は行えなくなります。



3-5. 開始・停止

リモート接続完了にてアナライザーを開始することができます。開始はメニューバーの「リモート」「開始」を選択するか、ツールバーの「開始」を選択します。開始されると右図のようにアイコンが切り替わります。停止するにはメニューバーの「リモート」「停止」を選択するか、ツールバーの「停止」を選択します。



開始時の通信設定等はアナライザー本体に設定されて設定が適用されます。変更する場合は、開始前にパソコンからリモート書込にて変更しておく必要があります。

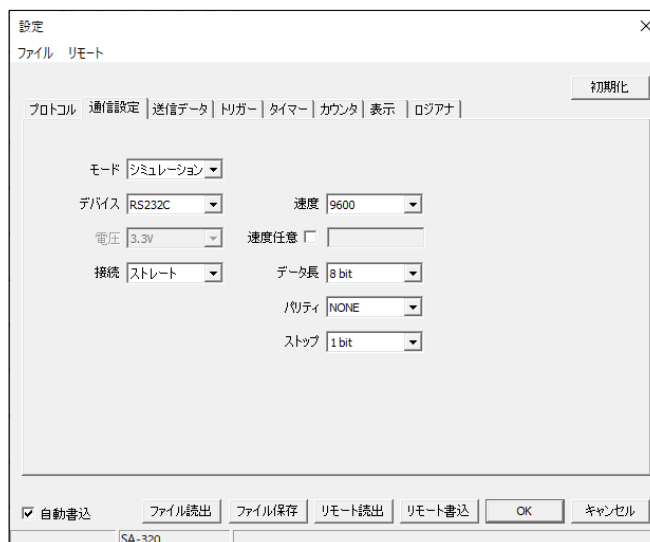
3-6. アナライザー設定

アナライザーの設定を行うにはメニューバーの「リモート」「設定」を選択するか、ツールバーの「設定」を選択します。

画面下段の「ファイル読出」「ファイル保存」にて設定ファイルをパソコン内に読出・保存が行えます。

「リモート読出」「リモート書込」にてアナライザーに対して読出し・書込みが行えます。アナライザーに対しての操作は事前に「接続」しておく必要があります。

「自動書込」をチェックすると、本設定画面を閉じるとき自動的にアナライザーに対して書込みを行います。



設定を変更しても画面下部のステータスバーの内容が変わりませんが、開始タイミングにて切り替わります。

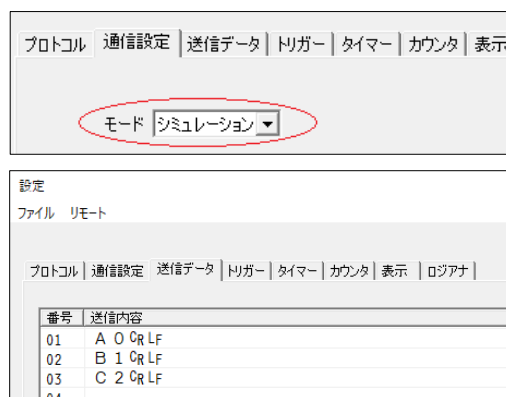
3-7. シミュレーション動作

シミュレーションモードにした場合パソコンから送信することが可能です。

「設定」「通信設定」にてモードをシミュレーションに設定します。

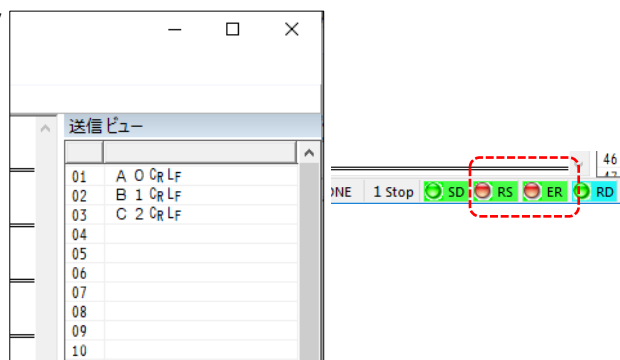
同様に「設定」「送信データ」にて該当する番号のセルをダブルクリックし送信内容を登録します。

リモート書込を行い、設定した内容をアナライザーに書込ます。



開始にて画面右側の送信ビューにて送信したいセルをクリックします。

画面右下の「RS」「ER」のランプをダブルクリックすることにより制御ラインの信号を切り替えることができます。



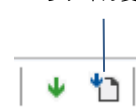
3-8. オンラインデータ受信

アナライザー単独にてモニタを実施後、そのデータをパソコンに取り込みたい場合は、接続後、「リモート」「オンラインデータ受信」を選択します。

オンラインデータ受信



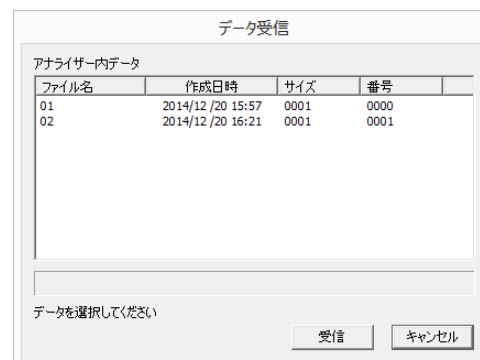
ファイル受信



3-9. ファイル受信

アナライザーに保存されているファイルを受信するには、接続後「リモート」「データ受信」にて行うことができます。

アナライザー内のファイル名が表示されますので、選択し「受信」をクリックします。受信するファイルの保存先フォルダーを指定後、受信が開始されます。



3-10. 印刷

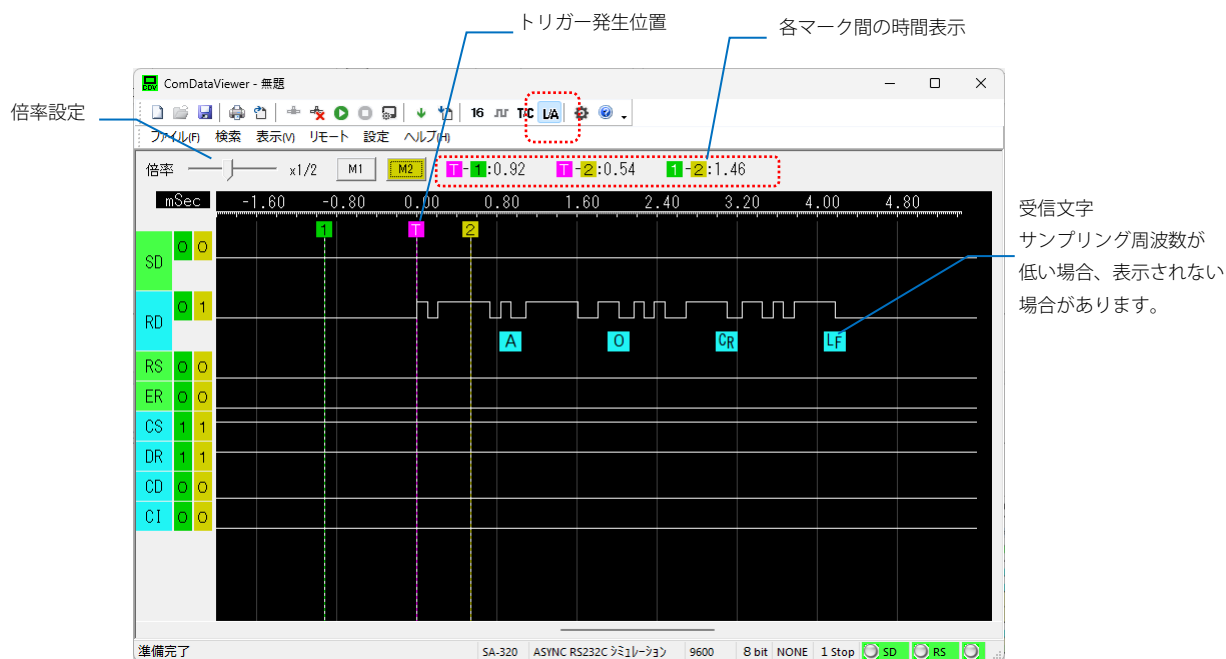
「ファイル」 「印刷」 にてデータを印刷することが可能です。

データ量によっては、100ページ以上となります。ページ数は「ファイル」 「印刷プレビュー」にて確認できます。Adobe PDF に印刷する場合は、プロパティにて「システムのフォントのみ使用し、文書のフォントを使用しない」のチェックを外してから印刷してください。

3-11. ロジアナ

ロジアナデータは開始中には表示されません。停止後、メニューの L/A ボタンにて表示されます。

L/A ボタンを再度クリックするに通常データ画面に戻ります。



「M1」 「M2」 はマークボタンで選択後、「←」 「→」 キーにて移動することが可能。

3-1-2. 環境設定

自動ファイル保存を選択するとデータが内部メモリ最大数に達した時点、または停止時に指定フォルダーに自動的に保存することができます。「設定」「環境設定」「ファイル」にて「自動ファイル保存」をチェックすることで自動保存されます。

保存先は「保存先フォルダー」にて指定します。

保存するファイルサイズは「ファイルサイズ」項目にて選択します。本ファイルサイズ変更にて内部メモリ最大数も変更されます。

保存ファイル名は

CdvAuto_yyyymmdd_hhmmdd.cyd

yyymmdd：日付

hhmmss：時刻

にて保存されます。

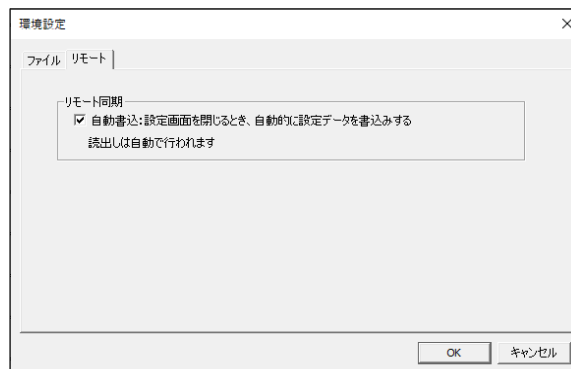
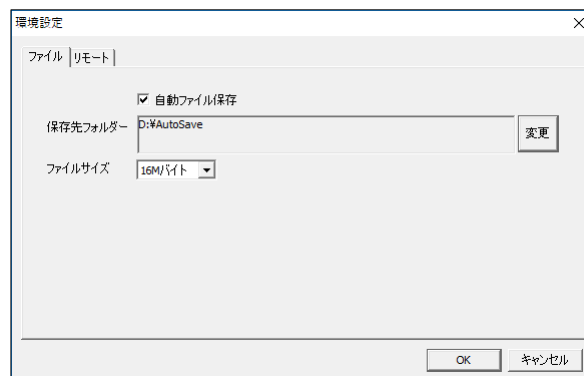
トリガー動作にて保存を選択した場合は、自動ファイル保存のチェック有無に関係なく、保存フォルダーに以下のファイル名にて保存されます。

CdvTrigsv_yyyymmdd_hhmmdd.cyd

yyymmdd：日付

hhmmss：時刻

設定画面にある「自動書込」設定は「環境設定」「リモート」にて行えます。



3-1-3. ファイル出力

「ファイル」「ファイル出力」にてデータを外部ファイルへ出力することが可能です。

出力は「テキスト」「CSV」の2種類の形式にて可能です。

- ・テキスト メモ帳等にて表示できるテキストファイル形式
- ・CSV エクセル等にて表示できるCSVファイル形式

データの表示モードが「連続」「フレーム」では出力形式が異なります。「フレーム」モードでは改行位置で出力データも改行します。

データ量の拡大に伴い、旧バージョンより「行番号/文字番号」の桁数が増えています。

「テキスト」「CSV」形式の選択

は「ファイル」にてファイル名を

入力する際に選択します。

各項目を設定後「実行」にてファイル

出力されます。

「出力開始文字位置」設定に出力するモニター

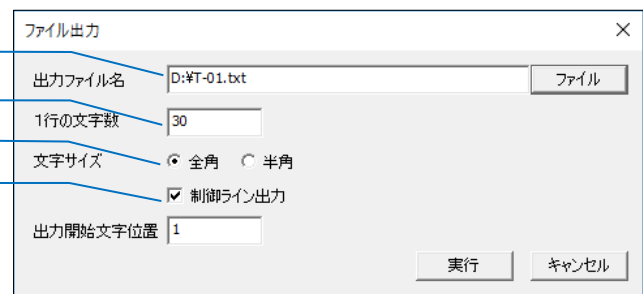
データの開始位置を指定できます。

出力ファイル名設定

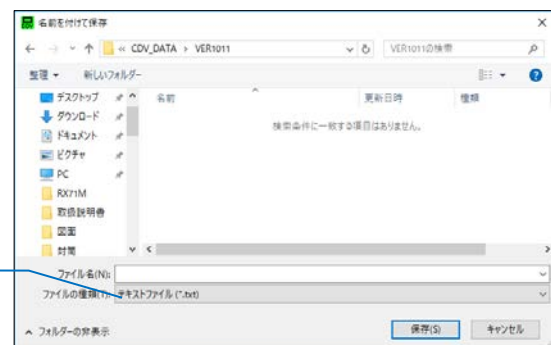
出力行数設定

出力文字サイズ設定

制御ライン出力設定



「テキスト」「CSV」の選択



3-13-1. テキストファイル形式 表示モード：連続

ファイル構造は先頭行に「ファイル名」が出力され、「行番号」「文字番号」の後に「SD」「RD」の各データが出力されます。データが存在する場合は、必ず「16進」「文字」がセットで出力されます。「16進」データが存在しない部分はデータが存在しません。また、見やすくする為に「・」が出力されますが、この部分もデータが存在しません。

出力ファイル名

行番号/文字番号

出力文字サイズ
全角：全角サイズ
半角：半角サイズ
半角の場合、表示位置調整の為に文字の前にスペースが挿入されます

```

FileName:T-01.cyd
0000001 SD .....4130203030310D0A.....423120
0000001 .....A O O O 1 CRLF..... B 1
RD 41300D0A.....42310D0A.....
A O CRLF..... B 1 CRLF.....
0000002 SD 323232320D0A.....43322030303133343536
0000021 2 2 2 2 CRLF..... C 2 O O 1 3 4 5 6
RD .....43320D0A.....
..... C 2 CRLF.....
0000003 SD 0D0A.....4130203030310D0A.....42
                    
```

1 行の文字数

16 進表記

文字表記

・「IDEL」「日時」データが存在した場合

IDLE 時間
整数部、少数部に分離し出力
最小単位によって書式以下となります

日時
日付、時間に対して個々に 2 行出力
例) 00/01/08 22:54:04

```

FileName:T-01IT.cyd
0000001 SD IDLE 00/01 ..... IDLE 00/01 4130
0000001 000 /08 ..... 000 /08 A O
RD .99 22:54 41300D0A .79 22:54 ..
:04 A O CRLF :05 ..
0000002 SD 20303030310D0A IDLE 00/01 ..... IDL
0000021 O O O 1 CRLF 001 /08 ..... 000
RD ..... .64 22:54 42310D0A .6
..... :07 B 1 CRLF
0000003 SD E 4231203232320D0A IDLE 00/01 .....
0000041 B 1 2 2 2 2 CRLF 000 /08 .....
                    
```

・IDLE の書式

0.1 秒単位 0.01 秒単位 0.001 秒単位 0.0001 秒単位

IDLE _0000_ _ . 9_ _ _ _ _	_IDLE_ _000_ _ . 99_ _ _ _ _	_IDLE_ _00_ _ . 999_ _ _ _ _	_IDLE_ _0. _ 9999_ _ _ _ _
---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

・日付の書式

日付+1 秒単位 _00/01_ _ _ _ /08_ _ 22:54_ _ _ _ :04_	1 秒単位 _ _ _ _ _ _ 22:54_ _ _ _ :04_	0.01 秒単位 _ _ _ _ _ _ 22:54_ _ :04.10_	日付+0.01 秒単位 _ _ _ 01_ _ _ _ /08_ _ 22:54_ _ :04.10_	日付 _00/01_ _ _ _ /08_ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _
---	--	--	---	---

- ・「制御ライン」を出力した場合

00 : ON 状態
 11 : OFF 状態
 01 : OFF から ON へ変化
 10 : ON から OFF へ変化
 空白 : 未配線状態

```

FileName:T-01LINE.cyd
0000001 SD .....4130203030310D0A..
0000001 .....A O O O 1 CRLF..
RD 41300D0A .....
A O CRLF .....
RS 11111111100000011111111111111111
ER 11111111111001111111111111111111
CS 11111111111111111111111111111111000
DR 11111111111111111111111111111111110
CD
CI
0000002 SD .....4231203232320D0A
  
```

旧バージョンの「空白：未配線状態」は 00 に変更となりました

- ・パリティエラー等のエラーデータは上段（16進表記位置）に「！」が出力され、下段（文字表記位置）に内容が出力されます。

3-13-3. テキストファイル形式 表示モード：フレーム

ファイル構造は先頭行に「ファイル名」が出力され、「行番号」「文字番号」の後に「SD」または「RD」の各データが出力されます。

データが存在する場合は、必ず「16進」「文字」がセットで出力されます。「16進」データが存在しない部分はデータが存在しません。

```

FileName:T-01.cyd
0000001 RD 41300D0A
0000001 A 0CRLF
0000002 SD 413020303030310D0A
0000005 A 0 0 0 0 1CRLF
0000003 RD 42310D0A
0000014 B 1CRLF
0000004 SD 423120323232320D0A
0000018 B 1 2 2 2 2CRLF
    
```

・「IDEL」「日時」データが存在した場合

IDLE、日時の書式は単位、設定項目により異なります。

```

FileName:T-01IT.cyd
0000001 RD IDLE 00/01/08 41300D0A
0000001 000.99 22:54:04 A 0CRLF
0000002 SD IDLE 00/01/08 413020303030310D0A
0000012 000.79 22:54:05 A 0 0 0 0 1CRLF
0000003 RD IDLE 00/01/08 42310D0A
0000028 001.64 22:54:07 B 1CRLF
0000004 SD IDLE 423120323232320D0A
0000039 000.63 B 1 2 2 2 2CRLF
    
```

・IDLEの書式

0.1 秒単位	0.01 秒単位	0.001 秒単位	0.0001 秒単位
_IDLE____ _0000.9_	_IDLE____ _000.09_	_IDLE____ _00.009_	_IDLE____ _0.0009_

・日時の書式

日付+1 秒単位	1 秒単位	0.01 秒単位	日付+0.01 秒単位	日付
00/01/08 _22:54:04_	_____ _22:54:04_	_____.22_ :54:04.10_	_01/08_22_ :54:04.10_	_00/01/08_ _____

「制御ライン」、「CSVファイル」に関しては「連続」モードに対して上記と同様の書式が適用されます。

3-14. アナライザー ファームウェア更新

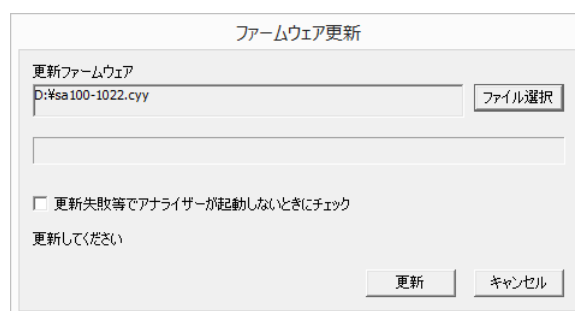
ファームウェアの更新にて本体内のデータが全て初期化されます。保存されたモニターデータも初期化されますので、予めパソコンリンクソフトで受信しておいてください。

ファームウェアの更新は途中で電源が切れないよう注意してください。途中で電源が切れると起動しなくなる可能性があります。アナライザーは必ずACアダプタを接続して行ってください。

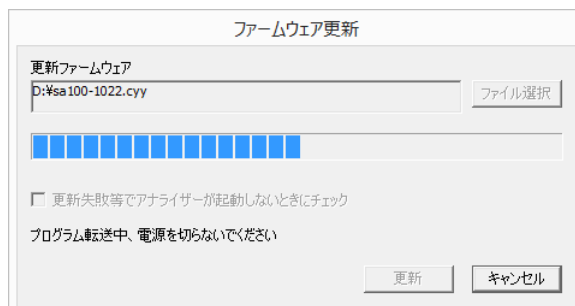
- ① アナライザーとパソコンを USB ケーブルで接続し、アナライザーの電源を入れます。
アナライザーの画面は電源投入時の画面にしておきます。

- ② パソコンリンクソフトにて「リモート」「ファームウェア更新」を選択します。

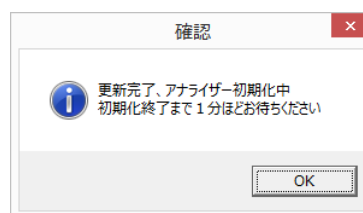
- ③ 更新ファイルを選択します。
更新失敗等にてアナライザーの画面が表示されない場合は「更新失敗でアナライザーが起動しないときにチェック」をチェックします。



- ④ 「更新」ボタンをクリックします。
更新処理が開始されます。
途中、進捗バーが停止しますが、アナライザー本体の画面に進捗が表示されます。



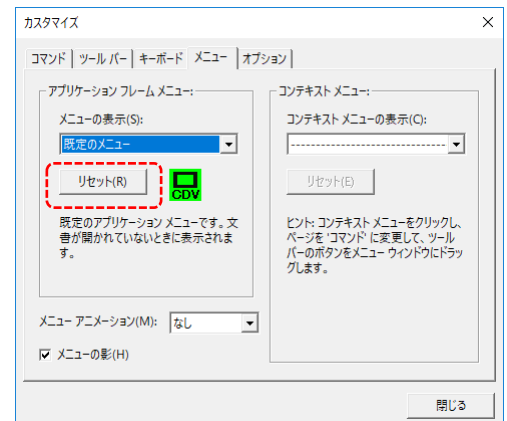
- ⑤ 完了にて「更新完了、アナライザー…」メッセージが表示されます。アナライザーは初期化中となりますが、パソコン側の処理は完了しましたので、「OK」をクリックします。



- ⑥ アナライザー側の初期化処理が完了すると更新完了です。

3-15. その他

本アプリケーションはメニューバー、ツールバーをカスタマイズすることが可能ですが、初期状態に戻ることができます。「表示」「ツールバーとドッキングウインドウ」「カスタマイズ」を選択します。右画面が表示され「メニュー」タブ内の「リセット」を選択します。



4. 仕様

対応アナライザー	SA-100、SA-120、SA-320
対応 OS	Microsoft Windows 10/11(64bit 版/32bit 版)※ Microsoft Windows 8.1(64bit 版/32bit 版)※ Microsoft Windows 7 SP1 以上(64bit 版/32bit 版)※ ※64bitOS では WOW64 モードにて動作します
必要メモリ	Microsoft Windows 10/11：1GB 以上(64bit 版の場合は 2GB 以上) Microsoft Windows 8.1：1GB 以上(64bit 版の場合は 2GB 以上) Microsoft Windows 7：1GB 以上(64bit 版の場合は 2GB 以上)
必要ディスク容量	50MB Windows がインストールされているドライブには Windows が推奨する空き領域が必要
ディスプレイ	画面解像度：1024x768 以上
必要ポート	USB2.0 準拠

改定履歴

改定番号	改定日	改定内容
Rev 2.110	2025/1/13	機能追加
Rev 2.100	2024/6/27	機能追加
Rev 2.001	2022/2/9	誤記訂正
Rev 2.000	2022/1/23	新規作成